

グローバルネットワークによる参加型漢字学習の研究

所属：神戸学院大学 グローバル・コミュニケーション学部

助成対象者：栗原 由加

共同研究者：小川 早百合、関 かおる、本田 弘之、尾崎 久美子

概要

日本企業の進出著しい海外諸国、特に東南アジアで、日本企業で働くことを目標として、日本語を学ぶ非漢字系日本語学習者が急増している。また、ヨーロッパやオセアニアなどの教育機関にも日本語学習者は多く存在している。本研究の目的は、これらの非漢字系学習者が日本語を学ぶ際の負担を軽減し、漢字学習を自律的に行えるようにすることである。その方法として、漢字学習を長期的に支援するためのグローバルネットワークの創出および漢字学習システムの構築を進めている。本助成金による研究では、全ての日本語学習者、教師が参加して教材を制作し使用する仕組みの開発および漢字学習システムの基本構築を行い、WEBサイトの試用版を制作した。

Abstract

The number of non-Kanji Japanese language learners who are studying Japanese with the aim of working for Japanese companies is rapidly increasing overseas, especially in Southeast Asia. There are also many Japanese language learners in educational institutions in Europe and Oceania. The goal of this study is to reduce the burden of learning Japanese for these non-Kanji learners, and to enable them to learn Kanji autonomously. To do this, we are creating a global network and a kanji learning system to provide long-term support for kanji learning. In the research funded by this grant, we developed a system in which all learners and teachers of Japanese can participate in the creation and use of teaching materials, built the basic structure of a kanji learning system, and created a trial version of a website.

研究内容

1. 背景

近年の日本語教育において、急激に重要性が高まっているのが、非漢字系学習者の効果的な漢字学習方法の開発である。この問題の最も大きな背景として「非漢字系諸国で日本語を学ぶ学習者の増加とその動機」がある。卒業後に日系企業で働くことを目標として、高校、大学などの教育機関で日本語を学ぶ学習者とともに、技術実習生などとして日本で働くために、日本語学校で日本語を学ぶ学習者も増加している。このような学習者にとって、日本語学習の大きな障壁の一つとなっているのが、文字学習、特に漢字の習得であるが、従来の日本語学習者の漢字学習には、以下の問題があり、この問題を包括的に解決する手段についての研究は行われていない。

1) 学習方法の効率性

漢字学習のために行われる「反復練習法」や「積み上げ記憶法」は、大人の学習者にとっての効果的な方法とは言えない。

2) 学習内容の必要性

漢字学習の内容が学習者の日本語学習上や業務遂行上の必要性和合致していないため、学習のモチベーションが維持できない。覚えてもすぐに忘れてしまう。

3) 学習手段の継続性

学習者は、教育機関に所属して漢字の授業に参加している間は漢字を学ぶが、就職後は、継続的に漢字を学ぶための適切な学習教材や手段がない。結果的に、学習者の漢字能力は初中級の段階で止まってしまう。

2. 目的

本研究の目的は、非漢字系日本語学習者が、効率的、継続的、能動的に学ぶことができる漢字学習システムを構築することである。このシステムでは、世界各地で日本語教育に従事する日本語教師を核に日本語学習者をグローバルネットワークでつなぎ、全員が「作る」「選ぶ」「学ぶ」という一連のプロセスに参加する。このシステムで漢字を学習するメリットは、次のとおりである。

- ・インターネット環境があれば、誰でもデータベース化された教材を使うことができる。
- ・学習者は、多くの教材の中から、必要なテーマの教材を選んで学習することができる。
- ・新しい漢字教材が継続的にデータベース化される仕組みを創ることで、学習者は進化し

続ける教材で学ぶことができる。

本研究の流れと具体的な漢字学習システムのイメージは、以下（図1）のとおりである。

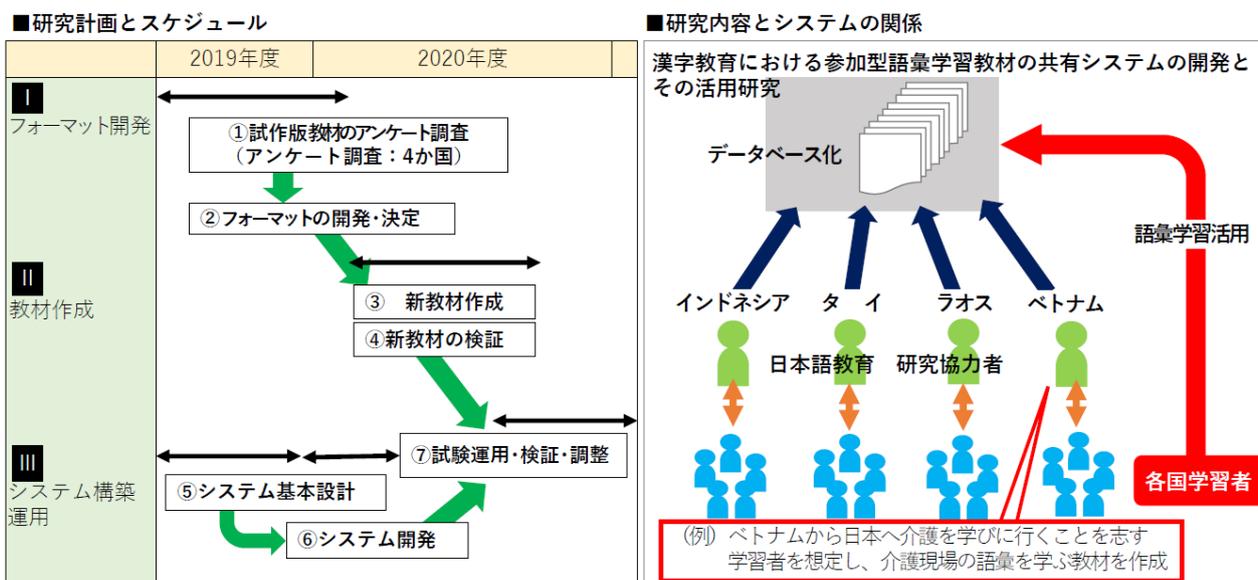


図1 研究スケジュールおよび漢字学習システムのイメージ

3. 結果

3. 1. 教材開発、フォーマット開発

● 統一フォーマット開発

2019年度までに既に制作していた語彙学習教材について改めて検討し、「使える漢字シリーズ」の統一フォーマットを作成した。この統一フォーマットは、ネットワークに参加する日本語学習者が教材制作に使用することを想定している。統一フォーマットを作成することで、初めて教材制作をする学習者でも漢字教材が作りやすく、WEBサイトに教材が掲載された時に教材が検索しやすくなる仕組みを整えた。統一フォーマットの概要は、以下のとおりである。統一フォーマットの種類は、今後制作される教材の内容を検討しながら、必要に応じて追加する。

- ・ファイル型式：パワーポイント
- ・サイズ、構成：A4サイズ、6頁
- ・種類：2タイプ（時間型フォーマット、辞書型フォーマット）

● 新テーマ教材開発

まず、統一フォーマットを使用した新教材をサンプルとして制作した。本研究がデータベース化を目指す教材の特徴は、写真やイラストを多用することで、学習者が視覚的にも

興味を持って、イメージから教材のテーマへの理解を深められる点にある。そのような教材を学習者自身が作成するというイメージが伝わるよう、サンプル教材で扱うテーマには、日本語学習者にとって身近なものを選定した。また、教材で使用する写真やイラストには、研究チームのメンバー自身が撮影したり描いたりしたものを使用した。実際に制作したサンプル教材のテーマを以下に示す。

サンプル教材テーマ：「自然」「乗り物 1」「乗り物 2」「駅」「天気・季節」「標識・掲示」「日本のお菓子」「病気・薬」「和食」「家族」「ホットケーキの作り方」

次に、教材制作についての新たな手法を開発した。これは、日本企業で働くことを目的とする日本語学習者に役立つ教材を作成するための、企業と連携して教材を制作する手法である。この手法は、2020 年度神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学部日本語コース 3 年次生のインターンシップにおいて、インターンシップ先企業のための語彙学習教材を制作する試みを通して開発したものである（栗原 2020）。この方法によって制作した教材のテーマを以下に示す。

語彙学習教材テーマ：「通関業務に関する語彙」「建設現場で使用する道具と標識についての語彙」「観光業の企業行動憲章に関する語彙」「介護現場で使用する語彙」「研修施設を使用する時の語彙」「図書館利用のマナーに関する語彙」「床上操作式クレーンに関する語彙」「商社の在庫管理方式の特徴に関する語彙」「賃貸サービスに関する語彙」「企業の 5 S 活動に関する語彙」「板金加工工程管理に関する語彙」「美容業に関する語彙」

3. 2. システム開発

日本語学習者、教師が漢字学習のグローバルネットワークに参加するための WEB サイトの試用版を作成し、試運転を行った（サイト名：「感じる漢字」）。以下（図 2）の左側は WEB サイトのトップページ、右側は教材掲載ページである。



図 2 WEB システム試用版（パソコン用）

なお、本研究が目指す参加型漢字学習のシステムを学習者が広く活用できるようにするためには、使用端末としてスマートフォンが優先されることを想定し、WEB サイトはレスポンス対応とした。以下（図3）は、上記（図2）に対応する画面をスマートフォンで表示したものである。



図3 WEBシステム試用版（スマートフォン用）

4. 今後の課題

1) 海外の研究協力者との連携による研究の発展

2020年度はコロナ禍により、海外の日本語教育機関での現地調査や教材開発を進めることができなかつたため、日本国内での活動を中心に研究を進めた。本研究での成果を発展させるため、今後、海外の研究協力者と連携し、システムおよび教材の検証と追加を行う。そして、現在のWEBシステム試用版を、海外の日本語学習者にとって使いやすいものに発展させる。

2) システムの機能の充実

WEBシステムについては、基本的な機能の構築を終えた段階であり、教材の検索方法の整理と検索機能の充実は、今後の課題である。また、WEBサイト画面のレイアウト、情報の表示方法や説明も、より見やすく使いやすいものにするため、更に改善が必要である。

3) システムの一般公開

本助成金で制作したWEBサイトの試用版は、上記1) 2) の更なる研究開発を経て、将来的には、誰もが無料で使用できる漢字学習ツールとして一般公開する。

本助成に関わる成果物

[論文発表]

栗原由加 (2021)「教員指導方式のインターンシップの試みーオンラインを活用したインターンシップ実践報告ー」『神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学会紀要』第6号, pp.57-67.

栗原由加、関かおる (2021)「学習者の母文化を生かした漢字学習」『JSL 漢字学習研究会誌第13号』, pp.11-19.

[口頭発表]

栗原由加、関かおる「学習者の母文化を生かした漢字学習」第84回 JSL 漢字学習研究会(於:お茶の水女子大学) 2020年2月8日.

[その他]

<留学生のインターンシップを活用した語彙学習教材開発の取り組みの紹介記事>

「留学生がオンラインインターン 神戸学院大 企業と提携し新しい形」教育学術新聞 (2020年9月9日)

「日本語コースの留学生 働く外国人向け教材をインターンシップで作成」毎日デジタル大学倶楽部 (2020年8月8日)

<https://mainichi.jp/univ/articles/20200807/org/00m/100/004000c>

「日本語コースの留学生がインターンシップで企業などのオンデマンド教材を作成」神戸学院大学 NEWS (2020年8月5日)

<https://www.kobegakuin.ac.jp/news/57c6ecd194fff6bca72f.html>